

## 2016年度 事業報告

(2016年4月1日 - 2017年3月31日) 【】内は参加人数

2016年度は日本・シンガポール外交関係樹立50周年に当たり、協会はこれを記念する行事として企画した(1)シンガポール・シニア・ゴルファーズ・ソサイエティ(SSGS)を中心とするシンガポールの方々との懇親ゴルフ交流会、(2)当協会合唱団(JCT)の現地合唱団とのジョイント・コンサート、(3)シンガポール・マラソンへの参加者募集促進の一翼を担うこと、の三つを現地シンガポールで実施した。当年度活動の中で一連の大イベントとなりハイライトともなった。

上記(1)～(3)については両国で記念事業として認定する「SJ50」の承認を得て、周到な準備作業を積み重ねた後、滞りなく実施し得た。シンガポールにおいて当協会の活動として実施したということは、シンガポールの方々や現地在住の日本人の方々にもアピールできた大きな広報意義を有するものであった。

(1)の「懇親ゴルフ交流会」は協会恒例の秋の懇親ゴルフを吸収したもので、シンガポールでの開催となった。(2)の「ジョイント・コンサート」は、シンガポリアン合唱団による日本語による演奏などもあり、当協会合唱団の演奏も併せ感動的なコンサートとなった。(3)は毎年開催されている「シンガポール・マラソンへの日本人の参加者募集促進」で、初めての試みであったが一定の成果を挙げることができた。以上から2016年度は記念行事中心の活動となったと言える。

会員サービスの充実を図ることは毎年の課題でもあったが、前年度からの懸案であった特典サービス案内付きの会員証発行を実現することができた。「会員一人に新会員一人」のキャンペーンを前年度から継続したが、善戦はしたものの成果を挙げるまでには至らなかった。このほか、引き続き運営コストに留意しつつ、一新を行ったホームページ及びアウトソーシング化した会計データ計上の保守を行った。

### 1、調査研究事業

2016年版「シンガポール共和国の概況」について、前年度同様会員サービスの一環として全員に配布し、一般にも販売した。

### 2、親善交流事業

会員相互の親睦、シンガポールとの交流を図るため下記を開催した。

- 1)「アフタヌーン・ティ・サロン」(2016/07/07)【74名】
- 2)「懇親ゴルフ大会」(2016/11/18)【プレイヤー33名、懇親会多数】(SICC New Course)【SJ50】
- 3)合唱部(JCT)の現地合唱団とのジョイント・コンサート【42名】(2016/11/19)【SJ50】
- 4)例年通りシンガポール JCCI からの留学生2名の日本滞在支援を行った。
- 5)「初笑い落語と懇親の集い」(2017/01/26)【48名】
- 6)「ゲット・トゥゲザー」(2017/02/22)【68名】
- 7)「関西シンガポール同窓会」(2016/08/04)、(2016/02/03)

### 3、セミナー・講演事業

下記講演会を開催した。

- 1)「シンガポールの産業変革と経済ビジョン」EDB 日本代表 ライオネル・リム氏(Mr. Lionel Lim)  
(2016/06/18 第46回定例総会：赤坂区民センター)【65名】
- 2)その他講師派遣・講演依頼に対応した(略)

### 4、出版事業

前年度に引き続き「シンガポール企業経営ガイド」、「シンガポール会社法Q&A」、「シンガポールの華人社会」、「シンガポール PAP 政権」、「ハローシンガポール」等の書籍を販売した。

### 5、広報事業

- 1)季刊誌「シンガポール」を3回発行した。  
月2回シンガポール・アセアン情報をメールにて配信した。
- 2)一新したホームページをより有効な広報とするため適宜保守した。
- 4)公共性・公益性の高いイベントについて、依頼により「後援」を行った。

以上

# 2017 年会計年度 事業計画

(2017 年 4 月 1 日 - 2018 年 3 月 31 日)

本年度は、理事改選による新執行部体制となるが、従来から取り組んでいる会員サービス、各種イベントの一層の充実を図るとともに、協会が直面する課題につき対応策を検討し着実に実施して行くこととする。協会が直面する最大の課題は会員数の減少とこれに伴う財政状況の悪化にあり、新会員の勧誘と運営コストの削減が急務となっている。このため、特効薬的な解決策は無いものの、(1) 理事のみならず顧問、参与を含む役員と認識を共有して多様な意見を汲み上げ、(2) 会員候補であるシンガポール現地の日本企業との交流を一層深め、(3) 広告、協賛・寄付金収入の増加、イベント毎の収支改善、事務局運営費の削減に取り組むことを基本方針とする。

本年度は下記の事業を計画し実行する。

## 1、会員増強活動の継続・強化

既存会員には特典サービス付き会員証の内容の拡充、魅力あるイベントの企画により会員サービスの充実を図るとともに、引き続き「会員増強キャンペーン」への協力をお願いする。新会員勧誘のためシンガポールの日本人会、日本商工会議所や有力親睦団体を往訪し協会の紹介、帰国後の入会の勧誘を図る。日本大使館はじめ駐在政府機関にもご協力をお願いすることを検討する。

## 2、各種事業活動の推進

### 2-1、調査研究事業

「シンガポール共和国の概況」の編集・発行を継続し会員に配布する。進出予定企業、地方自治体等からなど個別の問い合わせに関しては、シンガポール現地の関係者・機関とも密に連絡を取りながら対応する。

### 2-2、親善交流事業

恒例のアフタヌーンティー・サロン、ゲット・トゥゲザー、懇親ゴルフ、新春落語会等前年度同様に開催する。今秋来日が予定されているシンガポール・シニア・ゴルフ・ソサエティ (SSGS) のとの親善ゴルフ交流会を計画する。前年度開催を見送った「シンガポール日本人学校 OB&OG 懇親会」は内容の見直しを行った上開催に努める。シンガポールに関連する諸機関、他地域の同種協会その他の友好親善団体との交流を引き続き図る。

### 2-3、セミナー、講演会事業

シンガポール関連に限らず幅広いテーマの中から選択して講演会を企画する。青少年層の国際化支援のため、大学や高校へ引き続き講師の派遣やインターンシップの斡旋等に務める。

### 2-4、出版事業

シンガポール事情に関する研究をはじめ、シンガポール進出に関し、地方自治体や中堅企業のニーズに対応して、シンガポール及び周辺の歴史や、会社設立・経営・税務に係る書籍等の提供と情報サービスを提供する。

### 2-5、広報事業

季刊誌「シンガポール」は年3回の定期刊行を目指すが寄稿原稿の確保が課題となっている。寄稿者の拡大や新規開拓に注力するが適切な質・量の確保が難しい場合には合併号にして回数を減らすことも検討する。また、メールによるシンガポール・アセアン情報の定期配信を継続する。協会の広報媒体としてのホームページの重要性が増してきている。ホームページを閲覧しての照会、イベント参加が増え新会員獲得にも繋がっていることから一層の内容の充実とタイムリーな更新に注力する。併せて、ホームページを使った広告収入獲得にも努めたい。

以上